

(別紙様式 4-3)

授業科目等の概要

(工業専門課程 ボデー・リペア科 1年次 {3級課程}) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			詩吟	整備士に必要な明るく元気に声を出せること。また礼儀、服装など、節度ある態度が身に付くことを目的として行います。	1前後	30		○			○		○		
○			自動車総論	職場、中堅従業員の心得、効果的な仕事の進め方などを理解して、将来中堅従業員としての仕事とその役割を理解する。	1前	10		○			○		○		
○			ガソリンエンジン構造	ガソリンエンジンの部品名称、構造、作動、基礎技術や、新技術を導入し三級自動車整備士資格合格を目指す	1前後	51		○			○		○		
○			シャシ構造	シャシ部品の名称、構造、作動、基礎技術を含め基礎整備内容を主体とし、また新技術を導入し三級自動車整備士資格合格を目指す	1前後	62		○			○		○		
○			電装品構造	エンジン電装部品の名称、構造、作動、基礎技術を含め基礎整備内容を主体とし、新技術を導入し三級自動車整備士資格合格を目指す	1後	29		○			○		○		
○			自動車数学	三級自動車整備士問題の計算問題の過程を丁寧に解説し克服させ整備技術者を養成し国家資格合格をすることを目的とする。	1前後	30		○			○		○		
○			自動車材料	自動車三級自動車整備士を養成するため、車体、シャシ、エンジン各部の部品名称、材質、特性を習得する。	1前	8		○			○		○		
○			自動車環境	自動車排出ガスの種類、排出ガス浄化を習得し排出ガスがおよぼす汚染状況を把握する。	1後	7		○			○		○		
○			ガソリンエンジン整備	構造作動を理解し、正確に測定作業の知識を身に付け、的確に不具合箇所を診断し、故障を導き出せることを目的とする。	1後	9		○			○		○		
合計				9	科目	236 単位時間 (単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は6以上、実習科目は7以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3の(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4-3)

授業科目等の概要

（工業専門課程 ボデー・リペア科 1年次 {3級課程}）平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			シャシ整備	構造作動を理解し、正確に測定作業の知識を身に付け、的確に不具合箇所を診断し、故障を導き出せることを目的とする。	1後	9		○			○		○		
○			電装整備	構造作動を理解し、正確に測定作業の知識を身に付け、的確に不具合箇所を診断し、故障を導き出せることを目的とする。	1後	9		○			○		○		
○			三級演習	三級自動車整備士資格合格を目指し、これまでの学習内容を復習する。また過去問題を中心に取り組み苦手分野を克服する。	1後	86		○			○		○		
○			整備機器	整備作業に適した、整備機器を選択し、正確及び安全に作業できること。作業終了後は保守管理ができること。	1前	18		○			○		○		
○			自動車法規	三級自動車整備士に必要な、道路運送車両法、保安基準を習得すること。	1前	18		○			○		○		
○			基本実習 測定	一般測定機器の取り扱い、測定及び DMM のキットを作製させ、半導体の基礎知識また DMM を使用して点検方法を修得	1前	30				○	○		○		
○			基本実習 手仕上げ	丸棒から六角ナットを製作する各工程に使用する工具や測定機器及び旋盤の取扱い使用方法、注意事項の修得	1前	30				○	○		○		
○			基本実習 ツール・設備	手持ち工具、一般特殊工具の名称、正しい使用方法やネジに関する基礎知識並びにジャッキリフトの使用方法、安全作業を修得	1前	30				○	○		○		
○			基本実習 I エンジン	ガソリンエンジンの分解・組付、始動、工具の選択や使用方法及び各部の名称、構造、作動、測定 4気筒バルブ・タイミング・ダイヤグラム	1前	90				○	○		○		
合計			9 科目		314 単位時間 (単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の 90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は 6 以上、実習科目は 7 以上の評価を全て受けていること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	2 5 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3の(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 ボデー・リペア科 1年次 {3級課程}) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基本実習Ⅰ シャシ	MTの脱着作業及びクラッチの分解、組み付け、点検及び、MTの分解、点検、組付け、構造、作動、並びに適切な工具の選択及び使用方法を修得、ATの基本動作	1前	90			○	○		○			
○			基本実習Ⅰ 電装	点火、始動、充電装置の各構成部品及び回路及びスター・モータ、オルタナータ、IGコイル、イグナイタ、スパークプラグの点検、測定の方法を修得	1前	90			○	○		○			
○			基本実習Ⅱ シャシⅠ	デフアレシヤル、プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフト、エバール・ジョイントの構造、機能、点検方法及びブレーキの種類、基本構造を理解、習得する。	1後	80			○	○		○			
○			基本実習Ⅱ シャシⅡ	サスペンションの種類、ホイール・アライメントの働き、ステアリング、タイヤ、ホイールの基本構造を理解し、正確な測定、点検、分解、組み付け、調整ができること。	1後	80			○	○		○			
○			基本実習Ⅱ エンジン実車	エンジン脱着作業及び、電子制御装置のセンサ、アクチュエータ、コンピュータの働き、潤滑装置の部品名称、作動点検、冷却装置の部品名称、作動、点検	1後	80			○	○		○			
○			基本実習Ⅲ 総合	日常点検、定期点検時期、継続検査について理解する。	1後	40			○	○		○			
合計			6	科目	460 単位時間 (単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は6以上、実習科目は7以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3の(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4-3)

授業科目等の概要

(工業専門課程 ボデー・リペア科 2年次 {車体課程}) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			詩吟	整備士に必要な明るく元気に声を出せること。また礼儀、服装など、節度ある態度が身に付くことを目的として行います。	2前後	26		○			○		○		
○			車体構造	自動車車体の基礎理論、構造機能、新しい機構を理解し、近年の新機構なども合わせて修得して、車体整備士資格取得を目指す	2前後	23		○			○		○		
○			材料力学	自動車の強度、力学、油圧機器の原理などを習得し、近年の新機構なども合わせて修得して、車体整備士資格取得を目指す	2後	10		○			○		○		
○			材料	自動車車体用材料の分類と種類及び材料を理解し、近年の新材料なども合わせて修得して、車体整備士資格取得を目指す	2前	10		○			○		○		
○			板金	鋼板に発生する損傷と板金作業の概要を理解し、損傷が発生している部品の構造、素材を理解する。各種板金器具と使用方法	2前	10		○			○		○		
○			塗装	塗装作業の定義、環境の保全と作業者の安全衛生、塗料など危険物の取扱い、管理に配慮し、近年の新塗料なども合わせて修得。	2前後	30		○			○		○		
○			溶接	自動車車体、車枠整備に用いられる各種溶接各種溶接機の特長、ろう付け、ハンダ付け及び、近年の新技术なども合わせて修得。	2前後	20		○			○		○		
○			車体整備	車体整備の目的、車体整備と検査、不正改造の防止や、近年の新機構なども合わせて修得します。	2前後	81		○			○		○		
○			車体演習	過去の車体整備士問題を参考にして、基礎工学、車体の構造と機能、車体整備、塗装、法令を理解し、車体整備士資格取得を目指す。	2後	59		○			○		○		
合計			9	科目	269 単位時間 (単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は6以上、実習科目は7以上の評価を全て受けていること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	2 5 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3の(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4-3)

授業科目等の概要

(工業専門課程 ボデー・リペア科 2年次 {車体課程}) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車検査	車体整備を行う場合は、不正改造を防止するため保安基準を理解し、車体整備士資格取得を主目的とする。	2後	7		○			○		○		
○			車体実習 ボデー点検	事故修理車のボルトオンパネルの脱着、建付け調整、及び保安基準に適合しているか等、点検・検査を行える。	2後	35				○	○		○		
○			車体実習 板金	パネル修正作業の手順、パネルの変形の確認をしながら板金修正作業及び必要な工具の選定、ハンマーとドリルの取扱い、ハンマリングのテクニック	2後	60				○		○	○		○
○			車体実習 パネル整形	パネルプレスで整形作業、仕上げ作業(ならし作業、パテによる充てん)パテ修正による面出し、プラサフ塗装技術を修得する。	2前	90				○	○		○		
○			車体実習Ⅰ 塗装	新車塗装、補修塗装、基本的塗装テクニックを修得する。ソリッド・カラー、メタリック・カラーの塗装テクニックを修得する。	2前	90				○	○		○		
○			車体実習Ⅱ 塗装・調色	塗装テクニックを習熟させ、ソリッド色、メタリック、マイカ等の2コート色の補修塗装ができる。又、塗装不具合の対処ができる。	2前	90				○		○	○		○
○			車体実習Ⅱ ボデー修正	フレーム修正機の基礎的な知識、正しい固定セット・リセットができる。 ボデー損傷状態の確認、樹脂製部品の修理	2前	110				○	○		○		
○			車体実習Ⅱ フレーム修正	フレーム修正機で正しいボデー寸法計測が行える。ボデー損傷、変形の確認ができ効果的な引き作業へと導くことを取得する	2前	110				○	○		○		
○			車体実習Ⅲ 溶接	車体修理に当たりパネル取替作業も行われることから、各種溶接機が基本的に使用で安全に作業できることを修得する。	2前	30				○	○		○		
合計			9	科目	622 単位時間 (単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は6以上、実習科目は7以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3の(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4-3)

授業科目等の概要

(工業専門課程 ボデー・リペア科 2年次 {車体課程}) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			車体実習Ⅲ 見積もり・検査	事故修理見積りの基礎、大小ダメージ車の見積り及び見積り内容について、お客様に保説明。保安基準の適否の判定	2 前	110			○	○		○			
合計				1 科目										110 単位時間 (単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の 90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は 6 以上、実習科目は 7 以上の評価を全て受けていること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	2 5 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3の(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。